

「日本精神分析的心理療法フォーラム」投稿規程

投稿を希望される方は、以下の投稿規程に従って投稿してください。

投稿資格

本学会員であることを投稿資格とする。ただし、編集委員会からの依頼投稿についてはこの限りではない。

論文の条件

投稿論文は未公開のものに限る。

採否

論文の採否、掲載順などは編集委員会が決定する。

投稿論文

投稿された論文は、審査を経て、研究論文として掲載される。研究論文は、精神分析的心理療法についての研究学術論文を指し、近接領域の研究についても、審査の上掲載することがある。原稿作成については、ワープロを用い、A4判 40字×40行×12枚を限度とする。

プライバシーへの配慮

心理療法の専門家として、クライアントのプライバシーへの配慮は十分に払うことが求められる。

外国語の表記

外国の人名、地名等の固有名詞は、原則として原語を用いる。その以外の他の外国語にはなるべく訳語を用いること。外国語を用いる場合は、初出の際、訳語に引き続いて（ ）をつけ示すものとする。

<人名・地名例>

Freud, S./Sullivan, H.S./New York/London

<外国語例>

抑うつポジション(depressive position)/抱えること (holding) /エナクトメント (enactment)

図・表

図や表は、図 1、表 1 など順序をつけ、それぞれに題と内容を原則として和文で記載すること。

引用

本文中に文献を引用した場合は、引用した箇所を「」でくくり明示すると同時に、著者名と公刊年を記載すること。

a) 本文中に、著者名を記載する場合

田中 (1995) は、「○○」と述べている。

b) 引用の終わりに、著者を示す場合。

“○○” (田中, 1995)。

c) 訳本の場合には、原典の発行年と訳本の発行年を、“/”で併記する。

本文中記載 : Smith(1953/1990) 引用末記載 : (Smith, 1953/1990)

d) 著者が 3 人以上いる場合、本文中では、筆頭者のみを挙げ、和文献であれば“ら”，洋文献であれば“et al.”を用いる。ただし、文献リストでは、全員の著者名を記載する。

<和文献の例>

本文中記載 : 田中ら (2001) 引用末記載 : (田中ら, 2001)

<洋文献の例>

本文中記載 : Smith et al. (1986) 引用末記載 (Smith et al., 1986)

引用・参考文献

引用・参考文献は、本文の最後に「文献」としてまとめて記す。以下の例を参照のこと。

引用文献については引用箇所を最後に記すこと。

和書

岡野憲一郎 (2007) : 解離性障害—多重人格の理解と治療 岩崎学術出版 pp15-20.

洋書

Kohut H (1971) : The analysis of the self. International Universities Press.

邦訳書

Balint M (1968) : The basic fault : Therapeutic aspects of regression. Tavistock. 中井久

夫訳 (1978) : 治療論からみた退行 基底欠損の精神分析 金剛出版

和雑誌

森さち子 (2012) : 精神分析的な心理療法における相互交流プロセス—情緒交流が途絶えた関係からの回復を巡って 心理臨床学研究, 29(2), 141-152.

洋雑誌

Groesbeck J (1975) : The archetypal image of the wounded healer. *Journal of Analytical Psychology*, 20, 122-145.

要約

研究論文には英文要約と英語のキーワード、及びその邦訳文と日本語のキーワードを付すこと。英語のタイトルと氏名・所属のあとに、120～200語の英文要約と3～5つのキーワードを英語で記す。そのあとに、500語以内の邦訳文と日本語のキーワードをつける。英文については、専門家の校閲を経ているものが望ましい。英語として確かなものであること。

投稿原稿の提出

投稿原稿は、その投稿原稿の紙媒体コピー1部を郵送にて、電子データ（原則MSワード形式）の記録媒体をを郵送するか、またはe-mailに添付してて、編集委員会宛に送付すること。それに加えて、著者が必要と判断すれば電子データをプリントアウトしたものを編集委員会宛に郵送すること。郵送封筒には「投稿論文在中」と書き添えること。

（本規程は、2013年1月20日の理事会にて承認された。2016年4月3日に修正された。）